全労連第 30 回定期大会発言

いま、私たちは共通の課題に向き合っています。新型コロナウイルス感染症のパンデミックに直面して、新型コロナ以前に戻すのではなく、個人の自己責任を強調し、社会そのものを壊してきた新自由主義を退場させて新しい社会を実現するという課題です。

教育における新自由主義でいう自由は、「学校選択の自由」を装いながら、その本質は、教育行政が教育条件整備という責任を放棄する自由であり、政治が教育内容に巧妙に、時にはあからさまに介入する自由です。

私たちが長年求め続けてきた少人数学級の実現や教職員を増やすことには背を向けて、全国一斉学力テストや学校の特色づくりなどさまざまな競争を仕組んで、学校現場が競争のレールに乗らざるを得ないようにしてきました。

国や企業が新自由主義的な世界における競争で勝ち抜くための人材を、できるだけ無駄なお金をかけないで作り上げようとしてきました。子どもたち自身の人格の完成よりも、政府や経済界が望む人に育て上げることであるということこそ教育の役割というのです。教職員対しても、自分で考えるよりも、言われたとおりにやればよいのだといわんばかりの教員政策が強いられています。このような政策で失われてきたのは子どもたち一人ひとりの学ぶ権利であり、職場における自由闊達な議論であり、教職員の専門性でした。教育再生を掲げる安倍政権は、一方的に Society5.0 という社会像を描いて、その社会で活躍する人材を民間の教育産業のコンテンツを端末の画面に提供して効率的につくりだせる、もはや学校はいらないという構想まで語るようになりました。

しかし、この春、私たちが実感したのは学校の重要性でした。学校は子どもたちの居場所であり、成長する場としてかけがえのない役割を果たしています。ICTはたしかにコミュニケーションの道具にはなるが、その画面を通じてだけでは十分な学びとは言えないということもよくわかりました。ある中学生は「学校に行けば苦手な人と顔を合わせ、嫌いな教科も学び、時に退屈な時間を過ごすこともある。でも、その苦みや雑味も含めた日々には、何ものにも代えがたい味わいがある。学校では勉強だけでなく、人との関わりや、生きていくために必要な力も学ぶのだと、休校体験から気づいた」と書いています。この思いを受けとめるように、各地の学校で、子どもたちのいのちと健康を守り、学ぶ権利を保障するためにどうすればよいか議論されました。その経験を、ある教員は「給食をどうするか、手洗いをどうするかどれ一つとっても考えなくてはならないことがたくさんあって大変だが、みんなの知恵や工夫が集まった。なんだかワクワクした」と述べています。学校再開に向けて「密」になるのを避け、身体的距離を確保するために分散登校がおこなわれたときにはクラスの人数を半分にして20人程度で授業することがおこなわれました。そのとき子どもたちは「こんなに手を挙げられたのは初めて」「先生が声をかけてくれたから頑張れる」といい、教職員も一人ひとりにていねいに向き合えると実感しました。20人で学ぶことがゆとりをもたらし、豊かな学びにもつながることが事実をもって明らかになりました。

学校が本格的に再開されると、クラスの人数は元に戻り、授業時間の確保に追われ、夏休みも短縮され、子どもも教職員もへとへとです。小学6年生は「暑い夏にマスクをして、友だちと距離を保って、急いでたくさん勉強する。考えただけで息が苦しくなり、学校に行くのがつらいと感じます。僕たちはロボットではありません」と書いています。どうしたらいいか。20人で学べるようにしよう、そのために教職員を増やすことと教室の確保が必要だと、全国各地で声が上がっています。日本教育学会は10万人の教員増を提言し、必要な費用を1 兆円と試算しています。教育研究者有志のみなさんもネット上で少人数学級を求める署名をよびかけ、急速に賛同が集まっています。地方3団体も少人数学級の実現を求めています。政党も提言しています。政府は「骨太の方針2020」に「少人数によるきめ細かな指導体制の計画的な整備」と書き込まざるを得なくなっています。

これをぜひとも実現させたい。緊急に必要な課題であるとともに、教育の未来をひらくことでもあります。新型コロナウイルスが明らかにした課題を、あたかもなかったことにして、元に戻そうという動きが現れています。教育においてもSociety5.0のための人材育成の旗も下ろそうとはせずに、むしろ加速させようとしています。いま、まさにせめぎあいです。7 月初めから全教は「＃めざせ20人学級」プロジェクトにとりくんでいます。緊急アピールを発表し、皆さんに協力をいただいている概算要求に向けたえがお署名や、教育全国署名に「20人以下学級を展望した少人数学級の実現」を盛り込みました。「せんせい ふやそう」キャンペーンとも結んで、SNSを活用した世論の喚起、様々な団体への協力要請を展開しています。「20人学級」に向けて歩みだすことは新自由主義からの転換の突破口に

もなります。実現させるのはまさに私たち働く仲間・労働組合の連帯の力です。今までもそうだったように、これからも全労連の役割はますます重要です。おりしも今回の大会は、新議長を送り出すという全教にとっても一つの画期となる重要な大会です。全労連の一翼を担い、みなさんとともに前進する決意をのべて発言とします。